

よしまきい

2023年 早春号



舞いあがる！トモエガモの群れ

目次

公園の風景

- ・美しすぎるトモエガモ 1
- ・ノウサギは脱兎のごとく 1
- ・猿を絡めとる?! サルトリイバラ . . . 1

ラムサール登録への道 plus . . . 2

みんなの広場

- ・「葦の会」入会のきっかけは? . . . 2

活動紹介

- ・リースの輪ができるまで 3
- ・「葦の会」が新聞記事に! 3
- ・卯年のおみくじ 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内・

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか。



会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= 美しすぎる トモエガモ =

シベリア東部で繁殖し、冬には主に朝鮮半島、一部は日本へ渡り越冬します。公園にも毎冬のように飛来し、公園のマスコットキャラクターにもなっています。「コココッ」「クククッ」と鳴き、群れで飛び回る姿がビジターセンターからもよく観察されます。



オスの顔の模様様が名前の由来

開発による生息地の破壊や乱獲により個体数が激減していましたが、近年少しずつ飛来数が増加しているそうです。安心して越冬できる環境をいつまで守っていきたいですね。

阿知須の地名の由来にもなったトモエガモ。トモエとアジス？一体どんな関係があるのでしょうか？詳細は105号「みんなの広場」記載、HPから読めます。

= ノウサギは 脱兎のごとく =



ウサギと聞いて思い浮かべるイメージはどんな感じでしょうか？昔話に出てくる赤い目をした白ウサギも、動物園や家庭で飼われている灰色っぽい毛がふわふわの穴を掘るのが好きなウサギも、飼うウサギとして家畜化された「アナウサギ」です。

日本在来の「ニホンノウサギ」は文字通り、山に暮らす野生の兎。茶色く手足の長いシュツとした体つきで、穴は掘りませんが体力があり特に後ろ足が発達していて逃げ足も速くペットには向きません。この公園にも住んでいますが警戒心が強く、観察出来るのはココロコのフンばかり。今年の運試しにノウサギ探しはいかが？「脱兎の如く」逃げる後ろ姿だけでも見られればラッキー！

= 猿を絡めとる?! サルトリイバラ =

別名サンキライ/山帰来ともいう。サルトリイバラ科、雌雄異株のトゲのあるツル性植物です。サルトリイバラ（猿捕茨）のいわれは、トゲを持った小枝が絡み合い、猿が引っ掛かりそうな感じがするから。一方のサンキライは、根茎を生薬として使ってきた歴史があり、山で病気にかかった人がこの実を食べて元気に帰ってきたからと記されています。



東アジアに分布、日本では北海道から沖縄までの山野で見られ、丘陵など日当たりよく水はけのよい場所を好みます。初夏に目立たない白い小花が集まって咲きます。5~8月頃には緑色の実が次第に黄色く色付き、秋から冬にかけて赤くなります。



葦の会主催の12月の恒例行事「クリスマスリースを作ろう」ではシンボルカラーとしてこの赤い実は貴重です。園内ではあちこちで葉は確認できるものの実にはそうそうお目にかかれません。写真は昨年末、淡水池脇で偶然見つけた見事に実った一枝です。

根は薬用に、若葉は食用にもなり、山口県を含む西日本地域では菓子や柏餅を包むのに利用されたりもします。実は生食も果実酒作りも可能とのこと。園芸面では庭園の添景木として、実やユニークな枝ぶりは生け花やフラワーデザイン業界にも人気の花材となっています。

ラムサール登録への道 plus



きらら浜自然観察公園に隣接する山口湾のラムサール登録に向け活動している公園と葦の会ですが、登録されるとどんな良いことがあるのでしょうか。

山口湾はクロツラヘラサギやカブトガニなど、絶滅のおそれのある種を支えている湿地ということでラムサール登録の基準を満たしています。登録されると将来にわたり埋め立てなどの開発から守られるということが大きなメリットになります。

登録後は地域の自然と文化を発信することにより、「地域おこし」ができるかもしれません。この地域の魚介や農産物などがラムサールブランドとなることも期待できます。山口湾の名が世界に知られ、そんな地域に住んでいるという誇りや愛着にもつながっていくでしょう。山口湾という自然豊かな湿地を守りながら賢く利用し、私達の暮らしを心豊かに、そしてそれを子孫に残して行きたい。それがラムサール条約登録を目指す理由です。

登録されるには多くの人の共感と息の長い地道な活動が大切です。一度壊した自然は元には戻りません。みなさんもラムサール登録に向けて一緒に機運を高めて行きませんか？

観察ホールに置いたクロツラ募金箱の中身はおかげさまで着々と増えています。ご協力ありがとうございます。

みんなのひろば😊

「葦の会」入会のきっかけは？

公園のボランティアグループ「葦の会」は、今年で発足 20 年目となります。現在、20 代～70 代の会員約 30 名が自分の好きな分野のチームに入って活動しています。入会の動機は人それぞれ。一部ご紹介します。

- S さん（19 年目） 「仕事を辞めた後、何かしたいと思っていた頃に開園した自然観察公園がボランティアを募集していることを知り、即応募しました」
- F さん（2 年目） 「近所なので毎日のように来て好きな水鳥を見ながら散歩しているうち、公園のボランティアをすれば鳥に詳しくなれるかと思い入会」
- F さん（1 年目） 「息子とドライブ中たまたま足が向き、それまで存在は知っていたが来たことが無かった公園へ。後でホームページを見て募集を知って」
- M さん（5 年目） 「地域の回覧板で公園の「ヨシ焼」を知り参加した時に会った園長に、花や樹木が大好きなことを話すと、それならと「葦の会」を紹介され入会」
- T さん（4 年目） 「仕事を辞めていて、ヒマでヒマでたまらなかったから」
- N さん（2 年目） 「公園で始まった手話の講座に出た時に会のことを知り、おっかなびっくり」
- M さん（2 ヶ月目） 「よく歩きにくる公園でたまたま作業中の環境サポートチームに話を聞き、その足で受付に行き行って仮登録しました」

3 月 21 日に春のボランティア説明会があります。関心のある方、どしどしご応募下さい(^_^)/



活動紹介

= リースの輪ができるまで =



毎年大人気の「葦の会」主催行事「クリスマスリースを作ろう」（昨年12/10開催）は参加申し込み開始40分で70名の定員に達しました！今回は行事の内容ではなく、葦の会スタッフの裏方活動を紹介します。

一番に取りかかるのはリースのベースとなるクズの蔓の採集。クズが生い茂る藪に分け入り、木々に絡みついた蔓を巻き戻したり、引っ張ったり、一人の力では歯が立たず、数人がかりで引っ張って尻もちをついたり、キツイけれど楽しい作業です。集めた蔓を公園に運んで午前の活動は終了しますが、蔓が柔らかいうちに仕上げるのがポイント。午後にはすぐ蔓を絡め巻いて輪に仕上げる作業にかかります。こうして参加者数+スタッフが作る見本分として80余のリースの輪が仕上がりました。



サルトリイバラのトゲを除去

その他の材料は会員個々の自主活動により、ヒイラギやマキなど緑の枝葉、サルトリイバラなどの赤い実や花、雪のイメージを演出するナンキンハゼや松笠などの木の实、ドライフラワー等々、なんと35種類もの自然素材が集まりました。収穫したクズの最も太い蔓は公園のエントランスを飾る特大リースとなりました。



エントランスの特大リース



その他の材料は会員個々の自主活動により、ヒイラギやマキなど緑の枝葉、サルトリイバラなどの赤い実や花、雪のイメージを演出するナンキンハゼや松笠などの木の实、ドライフラワー等々、なんと35種類もの自然素材が集まりました。収穫したクズの最も太い蔓は公園のエントランスを飾る特大リースとなりました。

<俳句教室 最多選句>

・ 海風ぐや護岸に近き浮寝鳥 貞代

・ 鴨集い水尾を引きつつ雨の湖 敬子

11月 12月

= 葦の会が新聞記事に！ =

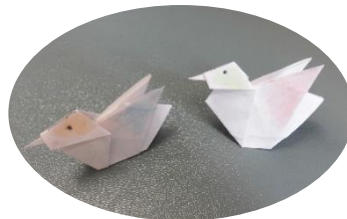
絶滅危惧種であるクロツラヘラサギをはじめとする豊かな生態系を育む山口湾のことが中国新聞に掲載されました。国際的に重要な湿地を守るラムサール条約への登録をめざして活動を続ける「葦の会」も紹介されています。

= 卯年のおみくじ =

毎年恒例となったきらら浜おみくじ。

今年は卯年ということで、公園で観察できる

「ウ&サギ」+αの内容で作成しました。大吉のダイサギ、小吉のコサギの他、カワウやウナギ、カメもはいていたのはなぜかわかりましたか？当たり付きで200個限定ということもあり3日の午後には完売。引いた人も引けなかった人も皆さんが良い年でありますように！



<編集後記>

「飛躍」や「向上」の年といわれる卯年がスタートしました。新年早々の中国新聞には山口湾の特集が生まれ、葦の会の活動も取り上げられました。会としても素晴らしい幕開けとなりました。今年も公園の自然や会の活動を、紙面を通し皆様にお伝えして参ります。 (Tasya)